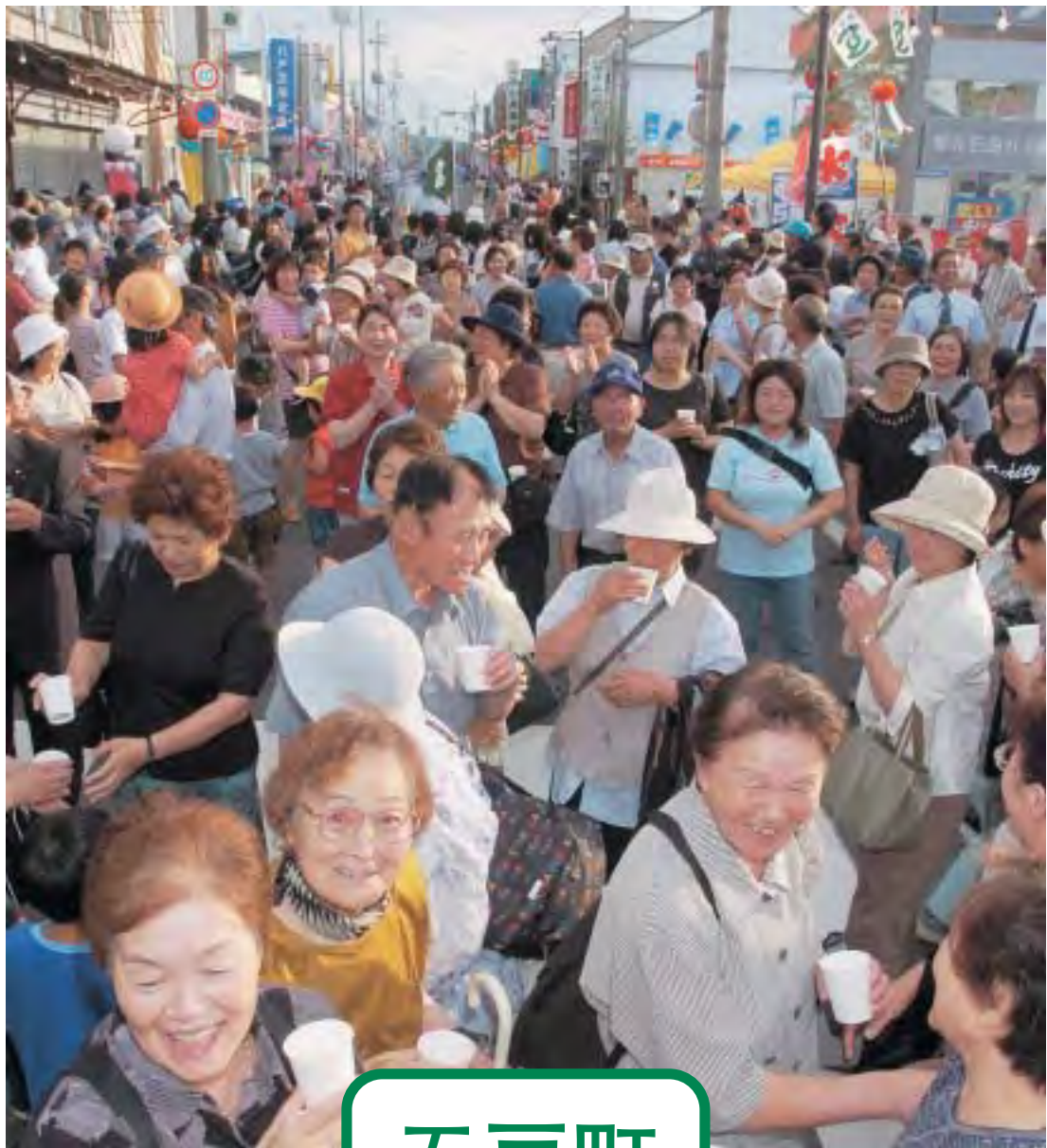


新たなまちづくり START



五戸町
町勢要覧

〔序 文〕

五戸町は、豊かで美しい自然風土と、先人達の知恵や文化に支えられ、温かく力強い人々の笑顔が輝くまちです。

この素晴らしい資源を守り育て、町民一人ひとりがゆとりとやすらぎ、そして潤いに満ちた生活を築くために、「みんなで創る、活気あるまちごのへ」を本町の将来の姿として、その実現を目指します。



町 章

五戸の五と戸を組み合わせ、動勢を加えて単純に図案化し、団結・町の発展を象徴しています。

(昭和36年7月1日制定)

目 次

| | | |
|--------------|---|----|
| ◎序 | 文 | 1 |
| ◎町民憲章 | | 2 |
| ◎町のすがた | | 3 |
| ◎生活環境、防災・防犯 | | 5 |
| ◎社会福祉、保健衛生 | | 6 |
| ◎農林業、商工業 | | 7 |
| ◎学校教育、社会教育 | | 8 |
| ◎コミュニティ | | 9 |
| ◎国際交流 | | 11 |
| ◎スポーツ施設、文化施設 | | 12 |
| ◎まつり、観光 | | 13 |
| ◎特産品 | | 14 |

表紙：合併記念イベント
1,000人乾杯
(平成16年7月1日)

五戸町民憲章

1. 私たちは、郷土を愛し
清潔で美しい町をつくります。
2. 私たちは、心と体をきたえ
健康で明るい町をつくります。
3. 私たちは、善意をひろめ
人情あつく温かい町をつくります。
4. 私たちは、生きがいを持ち
豊かで活力のある町をつくります。
5. 私たちは、伝統を重んじ
教育と文化のかおる町をつくります。

昭和59年8月30日制定



町の木「オンコ(イチイ)」

イチイ科の常緑針葉樹。材は優秀で、建材・家具・彫刻材などに用いられ、当地方では古くから生垣や床柱として利用されています。呼び方の“オンコ”はアイヌ語からでたものと言われています。

(昭和50年7月1日制定)



町の木「赤松」

赤松は、この地方の風土に適した常緑針葉樹で、古くから建築用の木材として利用されている他、観賞用の庭木や盆栽等に広く愛用されています。

(平成16年7月1日制定)



町の花「キク」

キクは、東洋の最も古い観賞植物で、当地方には隆盛期の江戸時代に伝わってきたと思われまます。観賞用として受け継がれている五戸菊と称するものが数種あります。

(昭和50年7月1日制定)



町の鳥「白鳥」

白鳥は、数年前から飛来してきており、非常にめでたいものとされています。羽数はまだ少ないものの、もっと飛来してくるような自然豊かな町にしていきたいという願いを込めています。

(平成16年7月1日制定)

〔町のすがた〕

位 置

本町は、青森県の南東部に位置し、八戸市から西に約15.5km、十和田市から南東に約12.5kmの距離にあります。

東は八戸市・福地村、西は新郷村、南は南部町・名川町、北は十和田市・六戸町・下田町とそれぞれ接し、東西約20.7km、南北約18.6kmにわたり広がる北東・南西方向に長いほぼ楕円形の形状を成し、総面積177.82km²を有しています。

気 象

本町における気象の最も大きな特徴は、夏季に「ヤマセ」とよばれる冷たい偏東風が吹くことであり、このヤマセはしばしば低温・長雨を伴い、農作物に影響を及ぼすことがあります。

しかし、北東北に位置しながらも、年間を通して寒暖の差が比較的小さく、積雪が少ないなど穏やかな気候に恵まれています。

地 勢

戸来岳に水源を發し太平洋に注ぐ五戸川と、新郷村温泉沢に水源を發し馬淵川に注ぐ浅水川の2本の川が、ほぼ並行して町を貫流しており、この2つの川を挟んで集落が形成されています。平坦部は、水利を得て水田が開け、奥羽山脈の東に發達した緩やかな丘陵地帯は畑や果樹園などに利用されています。

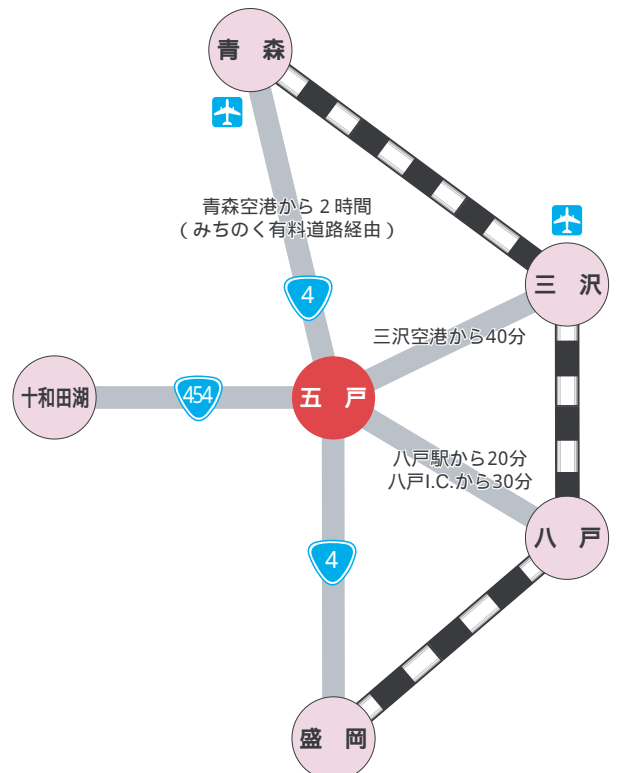


歴 史

本町に人々が定住したのは、数々の遺跡の発見から5,000年以上前の縄文時代までさかのぼると考えられています。文治5年(1189) 甲斐国南部三郎光行が、軍功によって糠部(今の青森県三八・上北地方など)の五郡を授けられたのがいわゆる南部氏の始まりであり、この糠部地方が軍馬育成に適していることから、九つの戸(牧場)に分け、さらに東西南北に分けた四門九戸の牧場制が敷かれ、ここから五戸の地名が誕生したといわれています。史書に残る最も古い記述では、寛元4年(1246) 鎌倉幕府の執権、北条時頼が左衛門尉平盛時に下した知行状に「陸奥国糠部五戸」という記述が見られます。

明治22年4月、町村制施行により五戸村となり、大正4年11月に町制を施行して「五戸町」が誕生しました。その後、昭和30年7月に川内村・浅田村と合併、さらに野沢村手倉橋・豊崎村豊間内の一部区域を編入。平成16年7月、倉石村を編入合併して現在に至っています。

交通の案内





五戸町案内図



生活環境

豊かな自然環境と田園風景の中で、住宅や上下水道、公園などの居住環境が整備され、地域内外を結ぶアクセス道路や生活道路などの交通環境が整い、町民が快適に暮らすことができるまちづくりを進めています。

本町では、人口が年々減少していることから、定住化を図るため、行政と民間の適切な役割分担による住宅用地の確保を進めるとともに、住宅を取り巻く環境の向上を図り、ゆとりとやすらぎのある居住環境づくりを目指します。

道路体系は、国道2路線（4号、454号）をはじめ、県道9路線、町道485路線で構成されています。今後は、周辺市町村や高速交通体系へのアクセス性の高い基幹道路と安全で快適な生活道路の整備を進めていきます。

年々増加してきたゴミ処理に対応するため、分別回収や資源リサイクルを実施し、自然環境の保全や景観づくりに配慮したまちづくりを進めます。

また、上水道や下水処理施設の整備を促進し、生活用水の安定した供給と汚水浄化の普及を図ります。



コスモス団地



ゴミ0運動



放水訓練



高齢者交通安全教室

防災・防犯

町民が安全で安心して生活できるよう、消防設備や防災行政無線など緊急災害時の連絡設備等の整備の充実を図るとともに、町民一人ひとりが自分の地域は自分で守るという自主防犯意識を高め、町民と地域社会、行政、警察、教育等の関係機関のネットワークを強化しながら、防災・防犯や交通安全対策に取り組んでいます。

本町では、地域の安全性を確保するために、防災関係機関と協力し、総合的な防災体制の構築のため、「五戸町地域防災計画」に基づき、五戸消防署及び29の消防分団を中心に、各種防災対策に努めています。

また、子どもが犯罪等の被害に遭わないように「子ども110番の家」などを設置したり、防犯灯の設置等により町民の安全を図るなど、防犯協会を中心とした犯罪の未然防止対策の強化に努めているほか、事故のない明るいまちを目指して、交通安全運動の推進、交通弱者にやさしい交通安全標識などの交通環境の整備、水の事故や遭難事故など緊急時における救助、救急体制の強化を図っています。

社会福祉

少子高齢化傾向は本町においても例外ではなく、高齢化率は年々増加しています。このような時代の流れの中、高齢者、子ども、働く女性などすべての人が健康で生きがいのある安心して生活できるまちづくりを進めています。

高齢化の進展に伴って介護の問題が深刻化してきた中で、高齢者が介護を必要とする状態になっても、自立した生活を送り、人生の最後まで人間として尊厳をまっとうできるように、介護保険制度が導入され、保険料・利用料を分担することで、要介護者が自らの状況に応じて良質なサービス提供を受ける選択ができるようになりました。

今後は、利用者の視点に立った質の向上を図り、健康づくりや介護予防に向けたサービスの提供も含め、高齢者の自立支援に向けた対策を講じて、いきいきと健康で生きがいのある暮らしを送ることができるよう、関係機関との連携を図っていきます。

子どもを生き育てやすい環境の整備を図るため、公立保育所の統合や民営化を念頭に置きながら、保育料の軽減を図っていきます。また、共働き世帯のために、小学生低学年の放課後児童クラブを実施しています。



老人スポーツ大会



親子クラブ



3か月健診



五戸総合病院

保健衛生

町民すべてが健康な生活を送れることを目標に、生活習慣病の予防、疾病の早期発見、健康管理に関する知識の普及・啓発に努めています。

また、健康で充実した生活を送るために、検診はもちろんのこと、食生活への配慮や適度な運動を心がけるなど、健康は自分で守る、育てる、創るという意識を町民一人ひとりが持てるよう、積極的な健康への貯蓄と世代や職業に応じた健康づくりを検討し、生涯を通じて健康で生活できる環境を官民一体となって目指します。

健康教育、生活習慣病の予防、高齢者等の健康相談、家庭訪問などの各種事業を実施するとともに、職員の能力開発を積極的に推進し、総合的に保健・福祉指導体制の強化を図っています。

疾病を早期に発見し、早期に治療するため、健診センターにおいて人間ドックなどの検診業務を行っており、乳幼児期から老年期までの各種検診の充実を図っています。医療面では、五戸総合病院が地域医療の拠点となり、救急医療はもちろんのこと、患者一人ひとりに対するきめ細かな治療を行うとともに、倉石診療所と連携を図っています。

農林業

本町の農業はこれまで、米、りんご、野菜を基幹作物として葉たばこ、畜産等との複合経営により農業振興を図ってきました。近年は経営の発展を図るため、高収益の新たな作物、ハウス栽培を導入して産地化を図ろうとする気運が高まっています。

農業を魅力ある産業にするため、農業者の仲間づくり、農業指導者の育成、担い手の育成・確保、観光滞在型農業の導入、地産地消、農産物のブランド化や高付加価値化等を推進しています。また、生産性の高い農業基盤の整備を進めるとともに、経営規模や形態の異なる農家間の土地、労働力の提携を進め、地域の特産物を活かした生産から流通までの一貫した農業経営の推進を図ります。

林業経営は木材の輸入、需要減退による価格の低迷、採算性や労働力の減少、林業従事者の高齢化など大きな問題を抱えています。しかし、森林が町土を守り、水をはぐくむことを思うと、私たちは森林を守り育てていかなければなりません。このため、町有林や民有林の適正な保育と除間伐を実施・指導していくとともに、間伐材等の有効利用を図っていきます。



にんにく播種



稲刈り



ビックリ夜店



地蔵平工業団地

商工業

多様化する消費者ニーズに後押しされた郊外型大型店、量販店、コンビニエンスストア等の進出の影響を受け、商店経営は目まぐるしい環境変化に対応していかなければならない状況にあります。

このような時代の流れの中、商業の活性化を図るため、商業環境の整備を促進し、特色ある商店街の形成と近代化を図り、消費者ニーズに的確に対応した魅力ある商圈づくりを商工会とともに進めています。また、後継者の育成、経営の合理化、協業化など、経営技術の向上を促進し、イベントの開催や商店間の連携を強化するなど地域に密着した商業の振興に努めます。

本町の工業は、地蔵平工業団地を中心として内陸型軽工業の集積を図ってきました。しかし、最近の急速な技術革新や情報化産業の進展により製品需要は基礎素材型、生活関連型産業から加工組立型産業に移行してきています。

このような状況の中、既存の工業団地の環境整備を進めるとともに、地場産業や中小企業の近代化、技術の高度化、経営の安定化に努め、環境との調和、景観の保全、就労の場の確保と企業誘致を含めた企業立地を促進します。

学校教育

国際化の進行や、急速な情報化社会の到来など、教育もまた変化する社会に対応するため、基礎学力の向上、英語力の向上、パソコン学習などを重点的に進めています。

本町には、小学校9校、中学校3校、県立高校1校、専修学校1校と、私立の幼稚園が2園あり、学校教育を「ひとづくり」の基礎と位置付け、児童・生徒が快適に学ぶことができる教育環境を整えるとともに、社会の動静や子どもたちの実態を把握し、一人ひとりの個性や可能性を最大限に活かし、生きる力と夢をはぐくむ教育を目指しています。

今後は、地域に開かれた学校を目指すとともに、少子化に対応すべく小学校の統合化の検討を図り、学校教育を生涯学習の一環として捉え、家庭・学校・地域の連携により、相手を思いやる心や郷土愛を育てることができるように、快適に学ぶことができる教育環境の整備、豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容と快適な教育基盤の充実などに力を注いでいきます。



情報教育



運動会



公民館講座



歩こう会

社会教育

社会構造が急激に変化する現代において、仕事面や生活面でこの変化に対応できる知識や情報を得るために、社会教育の重要性と期待がますます増大し、スポーツや芸術文化活動において、自由な自己表現、自己実現のできる場を求めています。

本町には、町立公民館・歴史みらいパーク（図書館）・倉石コミュニティセンター・ひばり野公園・屋内トレーニングセンター（五戸ドーム）・ひばり野スポーツ交流センター・倉石スポーツセンターなどの施設があり、これらの施設を中心に社会教育活動に取り組んでいます。

今後は、生涯学習社会形成に向け、町民一人ひとりの学習ニーズに対応できる学習環境の整備を図るとともに、「主体的に社会参加する町民」を目指し、総合的な社会教育を推進するため、生涯学習に資する人材の育成、多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり、社会教育情報の収集・提供、学習相談、利用しやすい社会教育施設の整備などに努め、町民が豊かで生きがいのある充実した生活が送れるよう、それぞれのライフステージに即した事業の展開を図ります。

コミュニティ

都市化傾向が進行し、地域への関心が薄れている現状の中、親しい近所づきあいや地域の連帯感が生み出す地域社会による子育て・教育・福祉・防犯などの機能に注目が集まり、まちづくりの最小単位としての地域コミュニティの重要性が再認識されています。

本町では、地域と行政が協働でまちづくりを進めるための基本的な原則を定めた「五戸町まちづくり基本条例」を制定し、行政と住民の信頼関係のもとで、それぞれの地域で美化運動、活動拠点整備、伝統・文化の継承や保存など、さまざまな活動を展開しています。

今後は、より活動しやすい環境づくりのため、もっと幅広い情報提供やリーダーとなる人材の掘り起こしと育成を図り、停滞を起さず常に進化した活動となるように、自らの意思で参加する地域づくりの土壌の形成と地域力を結集した魅力ある活動を実施できるよう積極的に支援し、心の豊かさが実感できる質の高い暮らしを実現できるよう推進します。



花いっぱい運動



地区を象徴する藤の木の再生



つつじの植栽



地区生活道の環境整備



郷土料理教室



地区案内看板設置



バス待合所の建設



環境美化運動（花いっぱい大賞）



集落公園の整備



伝統芸能の継承（石沢少年駒踊り）

国際交流

本町の国際交流は、昭和58年12月22日にフィリピン共和国のバヨンボン町と、平成9年8月28日に大韓民国の沃川郡と姉妹都市を締結し、国際交流協会との連携を図り、相互親善訪問、留学生の派遣、農業研修生の受け入れ、ホームステイ等を行うなど、主に人的交流を中心に事業展開しています。

また、三沢米軍基地との交流も活発に行っているほか、社会教育面においては、中学生海外派遣などを積極的に行っています。

今後は、国際社会の到来に向けて姉妹都市交流を推進しながら、地域の独自性を活かし、町民と行政が役割を担った幅広い国際交流を目指すとともに、国際理解学習、開発教育を進め、異文化や価値観を認め合い協力することができる、国際人としての人材育成と本町に滞在あるいは居住する外国人が安心して、しかも快適な生活が送れるよう国際社会にふさわしい地域社会の創造に努めます。



キムチづくり講習会（産業と文化まつり）



中学生交流（沃川郡にて）



バヨンボン交流（五戸まつり）



三沢米軍基地交流（凧づくり）



バヨンボン交流（茶会）



中学生海外派遣（シンガポール）

スポーツ施設

ひばり野公園



ひばり野スポーツ交流センター



倉石スポーツセンター



陸上競技場



野球場



テニスコート



五戸ドーム（屋内グラウンド）



屋内トレーニングセンター（五戸ドーム）



文化施設

ふるさとの味伝承館（ふれあい体験の郷）



そば打ち体験



ふるさとの家



歴史みらいパーク



野外ステージ



五戸代官所



町立公民館



エントランスホール



大ホール



図書館



図書館内



シグネット号（木村秀政ホール）



まつり

五戸まつり



南部石沢駒踊り



夢の森収穫感謝祭 & 倉石牛肉まつり



五戸えんぶり



観光

江渡家住宅



旧圓子家住宅



寶福寺



奥州街道



小渡平公園



夢の森ハイランド



特産品



馬肉料理



りんご



にんにく



ながいも



さくらんぼ



南部せんべい



アピオス



倉石牛



五戸駄菓子



紅玉アップルパイ



紅玉ゼリー



りんごジュース



なんばんみそ



はちみつ



地酒



五戸町

町勢要覧